

2013年(平成25年)6月15日(土)

「富士山庁」で一元管理を

「富士山を一元管理心もとない。「米国の『富士山庁』の設立が必要だ」。富士山クラブ元事務局長で、2300人いるが、富士都留文科大(山梨県)山はボランティアを含で「富士山学」を講義する専門家は現状を憂える。「登録確実」と多く

ニュージールランドの立公園は全域が国有地だが、富士山は所有者や管理者が国や県、社とバラバラだからだ。環境保全の面でも

世界文化遺産の登録に向け



グラウンドワーク三島専務理事

渡辺 豊博さん(63)

の3点で申請したが、信仰の評価が際立って高く登録勧告されただけ。富士講など『過去』に対する評価だ」と分析。「逆に『現在』の評価は厳しい。2011年最も危惧するのは登



わたなべ・とよひろ 1950年秋田県生まれ。5歳から三島市で育つ。東京農工大農学部卒業後、静岡県庁入り。NPO推進室長、エネルギー対策室長などを歴任。農学博士。都留文科大教授。

山者増。「夏の2カ月で32万人とされる登山者が間違いなく40万人を超える。登山道の改修や医療態勢の充実、レンジャーの増員が必要だ。バイトイレも増設しないとオーバーした分は垂れ流しになる」と訴える。

入山料についても、今夏の試行はようやく静岡、山梨両県で足並みがそろろうが、金額や徴収法などは未定のまま。「そもそも1日で1万人も2万人も登る山は世界に例がない。例えば1日5000人だけと規制し、1人3000円などとして入山料を取るべきだ。そのためにも一元管理が必要」と提案する。

【石川宏】

*「富士への思い」は随時、掲載します。